

## 第 21 回 神戸市中央卸売市場業務運営協議会 議事要旨

開催日時：令和 4 年 6 月 6 日（月）13 時 30 分～15 時

開催場所：三宮研修センター 8 階 805 号会議室

出席者：小野委員、西村委員、西委員、平野委員、石崎委員、石丸委員、米岡委員、福田委員、松見委員、辰己委員、原田委員、関谷委員、越智委員、東委員、岡田委員、山本（仁）委員、村上委員、丸尾委員

- 議題：①会長の選任について  
②会長代理（副会長）の指名について  
③専門部会の設置について  
④神戸市中央卸売市場（本場、東部市場及び西部市場）の取扱高の推移について  
⑤その他

### 議事要旨

議題① 小野委員を会長とすることに全会一致

議題② 会長指名により、西村委員を副会長とする

議題③ 事務局より概要説明

これまで通り、市場ごとに専門部会を設置することとした。

会長より、本場・西部市場の部会長に小野会長、東部市場の部会長に西村委員を指名。また、部会長に副部会長の選任を一任。

議題④ 事務局より資料説明

（委員） 青果について、全国的な状況と同様コロナ禍の影響が大きく表れている。昨年度以降、内食割合が下がり、業務需要が極端に落ちた影響で野菜の入荷量は前年より下回っている。果物は天候に大きく左右され、遅霜や夏場の豪雨等により、生産量・出荷量が落ち込んだが単価が逆に上がった。

物流効率化について、パレット輸送でないと市場での待機時間が長くなる。この課題をクリアできる市場が優位となってくる。

（委員） コロナの影響を受けた後、荷動きは悪くなっている。

今、危惧していることは輸送の問題。例えば、大阪市場に全部降ろすから、それを取りにきて、との声が来ている。兵庫県や神戸市が展望を持ってこれからは早急に考えないといけない。

（委員） 水産もトラック輸送に関して危機感を持っている。どうやって我々が選ばれる市場になるのか、神戸市民のために中央卸売市場がどういうことができるのか、開設者とともにも今後一緒に考えていきたい。

（委員） 花きについて、昨対としては 100%。ステイホームや巣籠もり需要によって、

いろんな過ごし方があった中での数字と分析している。

花きについても、輸入品でダメージを受けつつある。例でいうとカーネーション、外国から種が入りにくくなっている。また、海外からの鉢植えの鉢も、コンテナ単価が大きく値上がりしている。鉢の国産へのシフトが始まっている。また、輸入品に頼っていた洋花についても、国内の生産が息を吹き返している。

(委員) 大型産地は大きな市場へ集約する流れ。兵庫県内には産地が多く、輸送コストも安く、鮮度も一番いい。県内の産地としっかり連携をとっていただきたい。県産品の生産拡大ということで他府県での消費にという考えもあるとは思いますが、まずは県内で消費してもらう努力をやっていただきたい。

(委員) 生産者としては、神戸市内の3市場は非常に大切。絶え間なく改革を進めていただき、一層足腰の強い卸売市場を目指していただきたい。

(委員) お花屋さんから、コロナ以前に花を生産していた方がコロナで生産をやめてしまい、その花が出なくなっている。お肉屋さんからは、牛とか豚の飼料が外国産であることから、値上げせざるを得ない状況になっていくと聞いたりする。

(委員) 花きの肥料は価格が上昇する予定。消費者の方に納得してもらうだけの情報提供や、どういう展開をするかが大事。

(委員) 国産の牛肉豚肉の飼料は外国産が多く、飼料だけじゃなく下びきの稲わらも輸入に頼っているところがあり、円安の中、経費が高くなり国産牛肉は上がっている。輸入牛肉も、特にアメリカ、オーストラリアで食肉センターがコロナの影響で稼働しなくなるなど、品不足となっている。価格が上がっていく方向と思われる。

(委員) やはり地産地消、また、それぞれの商品のブランド化。神戸の市場に来ないと買えないというふうに持っていくべきではないかと。国内産、それから県産品というところに注力して、そして生産者のその思いをどれだけブランド化につなげていくかというのが必要じゃないかというふうに思う。例えば、シラスだが、神戸港沖のシラスを獲って淡路で加工すると淡路産、明石なら明石産、消費者のイメージがいいので値段も高く売れる。でも、神戸産は消費者に認められにくいと聞いている。今、漁協さんがブランド化しようとかんがっている。

地産地消でブランド化し、神戸の市場の価値を高めていくことが必要じゃないかと思っている。

(委員) 水産関係、例えばシラスも、神戸のブランドというように、徐々にでも名前を出すように努力している。

以上